

学校関係者評価報告書

この学校関係者評価報告書は、専門学校麻生医療福祉 & 観光カレッジの学校関係者評価委員会の結果を記したものである。

学校関係者評価報告書

専門学校 麻生医療福祉 & 観光カレッジ

平成30年8月22日

校 長 富田 博之

自己点検・評価責任者

校長代行 五十嵐 比奈子

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 2 -
1. 学校関係者評価の目的	- 2 -
2. 学校関係者評価の基本方針	- 2 -
3. 学校関係者評価委員名簿	- 2 -
4. 学校関係者評価委員会実施日時	- 2 -
5. 学校関係者評価方法	- 2 -
II. 学校関係者評価内容	- 3 -
基準 1 理念・目的	- 3 -
基準 2 教育の内容	- 4 -
基準 3 教育の実施体制	- 6 -
基準 4 教育目標の達成度	- 8 -
基準 5 学生支援	- 9 -
基準 6 学生募集・受け入れ	- 11 -
基準 7 社会的活動	- 12 -
基準 8 管理運営・財務（学校・グループ）	- 13 -
基準 10 改革・改善・情報提供	- 15 -
基準 9 は評価対象外	

平成29年度
(2017年度)

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的

- ①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、専門学校 麻生医療福祉&観光カレッジの自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2. 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

3. 学校関係者評価委員名簿

区分	氏名	所属
業界関係者	小山 勇毅	医療法人今光会 今光ホームケアクリニック 事務長
業界関係者	沖田 由美子	レンタルブティック&ウェディング ウィズワカバ 代表取締役
業界関係者	北島 武	新門司フェリーサービス株式会社 管理部部長
業界関係者	永田 秀之	社会福祉法人 西日本至福会 総務課長
業界関係者	竹之内 豊文	株式会社リーガロイヤルホテル小倉 副総支配人
業界関係者	能美 和則	学校法人青山学園 青山幼稚園 理事長
業界関係者	守田 昇平	医療法人医和基会 戸畑総合病院 事務次長
業界関係者	久本 二尊	株式会社スターフライヤー 執行役員 総務人事部長
高校	青木 圭子	福岡県立折尾高等学校 校長
地域住民	井手 國昭	三六まちづくり協議会 会長
卒業生	柿本 奈々	エアライン科卒業
卒業生	今仁 優衣	子ども福祉科卒業

卒業生	上田 恵里奈	医療秘書科卒業
卒業生	城田 浩太郎	介護福祉科卒業
保護者	安部 久美子	ホテル・ブライダル科の保護者

※区分別、敬称略

4. 学校関係者評価委員会実施日時

実施日時：平成30年6月21日（木）17：10 ～ 19：00

場 所：麻生医療福祉&観光カレッジ B棟 31教室

5. 学校関係者評価方法

平成29年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

※参考 自己点検・評価における達成度の評定

- S：達成度がきわめて高い
 A：ほぼ達成している
 B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）
 C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

Ⅱ. 学校関係者評価内容

基準 1 理念・目的

基準1 総括

建学の精神・法人の教育理念・教育方針等は開校当初より明文化され、全教職員・学生に周知している。

学科ごとの育成する人材像、コンセプトを明確に定めており、学生に対しては学生便覧等で周知している。実現するための具体的な計画、時代の変化に対応した内容となるよう毎年見直しを行っている。学校運営方針や学校のあるべき姿、望ましい姿は、事業計画書で定めており、毎年のキックオフミーティングにて全教職員に周知している。また3月末の非常勤講師会においても、学校運営方針、学科の育成する人材像等について共有している。

学校の特色については、総合パンフレットや Web サイトで学外に公表している。

見つかった課題

新入生に対して、建学の精神、教育理念、教育方針を同じベクトルで周知。

改善策又は改善の方向性

2018 年の入学生には、入学生オリエンテーション時に新入生全員に一括で説明し、周知を図る。

■学校関係者評価結果：適正

学校関係者評価 評価者のご意見

多様な学科がある中で、学科毎の育成する人材像、コンセプトを定め、変化にも対応する姿勢はすばらしい。

中項目 1-1

建学の精神・法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育人材像を明文化し、学校構成員で共有し、社会に公表しているか。

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果：A

■中項目総括

教育理念等に職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方等を盛り込み、全常勤職員に対しては、『麻生塾ルールブック』にて、全学生に対しては『学生便覧』にて周知している。また、教育理念は法人全体のパンフレットにも記載している。

学科、コースの教育目的・目標及び修業期間における教育計画は、『学生便覧』に記載し学生に提示している。また、学外に対しては、Web サイト・パンフレットにより公表している。

小項目 1-1-1

法人創設時に生まれた「建学の精神」、および根本的な考え方である「法人の理念」を明文化し、学校構成員(すべての教員、職員、学生)に周知する機会を設け、社会に公表しているか。

■自己点検・評価結果：A

■コメント

教職員には『ルールブック』、学生には『学生便覧』に掲載している。社会に対しては Web サイトにて公表している。非常勤講師へは、全員への周知の確認が必要である。

小項目 1-1-2

「学校の教育理念」は明文化し、教育と指導を通して学生に十分に理解され、本学校の卒業生としてふさわしい資質として周知させているか。

■自己点検・評価結果：B

■コメント

学校の教育理念については、明文化し教職員に周知している。学生に対しては、GCB 等の授業を通して学生に伝えているが、更なる周知・浸透を必要とする。

小項目 1-1-3

「学校の教育理念」には、職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容などを盛り込んでおり、定期的に見直しを図っているか。「学校の教育理念」は社会に公表しているか。

■自己点検・評価結果：A

■コメント

学校の教育理念については、専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容を盛り込んでおり、毎年見直しを行っている。その他の内部環境、外部環境の変化について組織的、計画的な見直しという点が課題である。

小項目 1-1-4

各学科の教育目的や育人材像は、「法人の理念」および「学校の教育理念」から導き出されたものになっているか。またそれらを文書化し社会に公表しているか。

■自己点検・評価結果：A

■コメント

各学科の教育目的や育人材像を成文化しており、「法人の理念」および「学校の教育理念」からの目標展開になっている。また、「学校の教育理念」と各学科の教育目的等に整合性もあり、社会には Web サイト、パンフレットなどの印刷物でも掲載している。今後、非常勤、常勤講師全員が教育目的や育人材像について、共通の認識を図っていく。

小項目 1-1-5

教育課程(カリキュラム表など)を文書化し、学生に提示し、学生は内容を理解しているか。またそれらを社会に公表しているか。

■自己点検・評価結果：A

■コメント

カリキュラム表は文書化されており、教員と学生はカリキュラム表を所持し、学生は科目の構成を教員から説明を受けて理解している。また、カリキュラム表はパンフレット、Web サイトも公表されている。教育課程の内容が全学生の希望と合致しないこともあるが、人材育成に対して科目構成の必要性を理解させている。

=====

基準 2 教育の内容

=====

基準 2 総括

教育目標や人材育成像は、各業界情報(ニーズ、将来性)等により人材ニーズを把握した上で設定している。また学科ごとに卒業時の到達目標を明確化している。カリキュラムは体系的に編成しており、各科目間の繋がりも適正である。

業界関係者・有識者などの外部メンバーを交えた教育課程編成委員会を年2回開催し、本校の教育内容、カリキュラムに対するご意見をいただいている。また同委員会でいただいた意見を学内の教務会議やカリキュラム会議等で検討し、カリキュラム編成や学科開発に活用している。

教科ごとのシラバスは統一フォーマットで作成しており、授業開始前に学生へ配布し、科目の目的、目標、成績評価の方法を説明している。授業運営については、担当教員ごとに教師アンケートを実施し、結果を担当教員にフィードバックすることにより授業改善を目指している。教員の採用については、学科の育成目標に向けた授業を行うことができる要件を満たしている。

常勤講師については、スキルマップ、人材育成計画に基づき専門性、スキルの向上を図るため、研修計画を作成し、学内外における研修へ派遣している。研修に参加した者は、研修後に研修報告書を提出している。

見つかった課題

学生個々の理解度に乖離が見られるようになり、特に検定取得については、従来の授業時間数や内容の検討を行う必要がある。教育の質の向上を目指し、業界の今後の展望や方向性を踏まえ、個々の教員が情報収集を行う必要がある。また、授業改善活動や教員研修について、PDCA の「C・A」の部分を徹底する必要がある。

改善策又は改善の方向性

教科間の整合性を再検証し、授業運営を教務会議、カリキュラム会議などで検討した。また 2018 年度より教育力推進チームを組織し、定期的な授業見学や教科勉強会等を行い、PDCA を回すことで更なる授業力の向上並びに教育の質の向上を目指す。

■学校関係者評価結果：適正

学校関係者評価 評価者のご意見

特になし。

中項目 2-1

各学科の教育目的、育成人材像に向けたカリキュラムの作成等の取り組みをしているか。

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果：A

■中項目総括

学校・学科の「育成人材像」を明確にし、『学生便覧』に記載している。

カリキュラムについては、学内の教職員によるカリキュラム会議で検討し、さらにその内容を 2 回/年の職業実践専門課程の教育課程編成委員会に落とし込み、顧客ニーズを把握した上で作成している。教育課程編成委員会は、「外部関係者」として、専攻分野に関する企業等の役職員又は有識者 2 名以上を委員として選定し、組織している。

非常勤講師に対しては、学科の育成する人材像に合わせたカリキュラム、その中の科目設定であることを説明し、科目の目的、目標を明確にした上でシラバスを作成するよう依頼している。シラバスは、決められた書式で作成し、最初の授業で学生に印刷物による配布をすることとしている。併せて各学科でとりまとめ、成績表と一緒に綴じ、保管しておくこととしている。

小項目 2-1-1

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)として、卒業認定のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するか等の基本的な方針を定めているか。

■自己点検・評価結果：A

■コメント

カリキュラムポリシーは内容を具体的に示し成文化している。学修方法や、評価方法についても具体的に示し、教育の目的、教育目標を達成できるようにしている。ディプロマ・ポリシーとの一体性、整合性を持たせる観点で、改善を図っていく。

小項目 2-1-2

学科の育成人材像およびカリキュラムは、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けて作成し、社会に公表しているか。

■自己点検・評価結果：B

■コメント

業界の人材ニーズを把握し成文化しており、その内容や学修方法についても具体的に示している。育成人材像およびカリキュラムとの業界の人材ニーズについては変化が著しく、方向性は合致しているが、力量レベルに課題を感じている。

小項目 2-1-3

育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムおよびシラバスを作成しているか。シラバスは事前に学生に配布しているか。

■自己点検・評価結果：A

■コメント

カリキュラムとシラバスは修業年限分を文書化し、教員間で共有できるよう保管している。学生には、授業開始前に配布している。周知させる方法が有効かつ適切化となるよう、今後改善していく。

小項目 2-1-4

カリキュラムの作成に際し、複数の内部職員および業界関係者などの外部関係者を入れて、カリキュラム改善のために意見を取り入れているか

■自己点検・評価結果：S

■コメント

学科におけるカリキュラム会議および業界関係者等から構成される教育課程編成委員会の意見をもとに、毎年カリキュラムの見直しを行っている。

小項目 2-1-5

教科ごとのシラバスおよびコマシラバスを取りまとめて、教科間の整合性を図り、定期的に検証・見直しているか

■自己点検・評価結果： A

■コメント

責任者がコマシラバスを取りまとめている。学科責任者は教科間の整合性を確認し、定期的に検証している。非常勤のシラバスの保存については、保存方法の改善が必要である。

中項目 2-2

教育方法は適切に行なっているか。

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果： A

■中項目総括

教科内容に適合した授業方法が確立している。教科ごとに学生にはシラバスを配布し、内容、評価方法、学習目標について学生に周知している。評価は客観性、厳格性のあるものとしている。

小項目 2-2-6

授業方法は適切に行なっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

授業方法は教科内容と適合している。授業効果の高いアクティブラーニングや、インストラクショナルデザインに見られるような授業方法など、教育上の有効性を考慮した授業方法を用いて指導している。授業アンケートを用い、学生の授業に関する満足度をはかっている。科目によって学生の満足度に差が見られるものは、よりよい授業方法をさらに検討する。

小項目 2-2-7

コマシラバスを作成し、授業の中で概略と到達点を学生に周知しているか。シラバス・コマシラバスに基づいて授業を展開しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

シラバスを作成し、学生には科目概略・学修到達点を周知している。シラバス・コマシラバスに基づいて授業を展開し、変更が生じた場合は修正し学生に伝えるとともに、授業報告書として記録に残している。授業報告書としては、情報量に差が見られる。

小項目 2-2-8

学習の評価は適切に行なっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

評価基準を学生に明示し、学習到達目標に応じた評価方法を設定している。評価は点数化し、根拠を示すことができるようにしている。演習、実習、実技の科目についても評価基準の成文化を明確にすることがさらに求められる。

中項目 2-3

教授学習プロセスの改善および教員の資質の維持や向上への取り組みをしているか。

■学校関係者評価結果：不適合

■自己点検・評価結果： C

■中項目総括

生による授業評価を定期的に年 2 回(前・後期末)実施している。アンケート項目については、教育力向上プロジェクト委員会にて見直しを行い、より効果的なアンケートとなるよう改善している。実施したアンケートの結果は、教員ごとに集計し、常勤講師については校長代行による返却、面談を行っている。非常勤講師については、教務副主任又は学科リーダーから返却を行っている。2017 年度は本アンケートの結果をもとにした改善活動の実施、記録が不足しているのも見受けられた。

各学科の教育目標、育成人材像に向けた教員の資質の維持や向上にむけ、スキルマップをもとに研修計画を作成し、研修の実施、派遣を行った。しかしその効果検証や評価を行うことに関して、今後改善の余地がある。

2018 年度より教育力推進チームを組織し、定期的な授業見学や教科勉強会などを計画し、各教員の授業力向上ならびに教育の質向上を目指す。

小項目 2-3-9

学生による授業評価を定期的に行なっているか。評価結果をもとに授業観察や研修等の改善活動を計画的に行ない、それらを文書で確認できるか

■自己点検・評価結果： C

■コメント

決められたフォーマットにより、年 2 回(前・後期末)教師アンケートを実施している。前期、後期の授業アンケートの結果返却時に副主任、校長代行による面談を実施し、記録を残している。2017 年度は改善計画における授業観察や研修等の実施方法において、改善活動の効果検証の記録について、改善していく必要がある。

小項目 2-3-10

学生による授業評価以外で、授業改善のための取組みを組織的、計画的に行なっているか。(授業改善委員会、FD等、名

称問わず)

■自己点検・評価結果: C

■コメント

校長代行、副主任、各系リーダーにより、リーダー会議の中で授業改善に対する提案や検証を行なっているが、学校全体としての共有を徹底する必要がある。また、研究発表会や学習報告会についても、検証後の改善活動を徹底する必要がある。2018 年度より教育力推進チームを組織し、定期的な授業見学や教科勉強会などを計画し、各教員の授業力向上ならびに教育の質向上を目指す。

小項目 2-3-11

教員の専門性や指導力等の維持、向上のために、計画的に内部・外部の研修や自己啓発の支援を行ない、検証・評価を行なっているか

■自己点検・評価結果: C

■コメント

麻生塾のスキルマップに従い、教職員に対して研修計画を作成している。役職や就業年数に応じて学内において研修を実施している。また、研修計画に基づき外部研修へも派遣している。自己啓発支援金制度および研修制度も設けている。2018 年度は参加した研修について情報交換・勉強会を行う機会を設け、より多くの教職員が自己啓発できることを目標とする。

中項目 2-4

業界ニーズに対応した付加的教育の取り組みをしているか

■学校関係者評価結果:適合

■自己点検・評価結果: A

■中項目総括

現場実習内容・場所については、教育目標と合致した実践となるよう、学科ごとに検討している。企業と連携を図り、実習を行うことで実践的な教育を行うことに加え、コミュニケーション能力向上のため、一般教養・演習・実習指導等の時間に、グループワーク、ディスカッション・プレゼンテーションを実施している。また業界ニーズに対応した教育を行うため、人間性の育成を目的としたGCB教育や業界教育・資質教育を行っている。また、社会人として必要とされるビジネス教育は、ビジネスマナー、ビジネス実務、接客マナー等の授業を通して行っている。

学力不足による基礎学力を補うためのリメディアル(導入前教育、補習)教育については、入学決定者全員に対し、ASOドリルを導入し、入学前から自己学習が出来る e-learning 環境を整備している。また入学時の基礎学力テスト共通試験の結果をもとに対象者を選定し、国語フォロー講座を行っている。2017 年度は全学科の課題でもある基礎コミュニケーション講座を新たに実施した。

小項目 2-4-12

企業・施設等での職場実習(インターンシップ含む)を行なっているか。

■自己点検・評価結果: S

■コメント

現場実習内容・場所が、教育目標と合致した実践となるよう、学科ごとに検討している。全学科、現場実習が必修であり、単位化されている。

小項目 2-4-13

キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。

■自己点検・評価結果: B

■コメント

GCB 教育や学科ごとに「キャリア教育計画書」をもとにしたキャリア教育を行っているが、その到達目標や評価において、改善が必要である。

小項目 2-4-14

リメディアル(導入前教育、補習)教育を行なっているか。

■自己点検・評価結果: A

■コメント

入学者に対し基礎学力テストや学力共通試験を実施している。その結果を経年分析し、学力不足の学生には「国語フォロー講座」を行っている。国語フォロー講座終了時の結果をもとに、その後の学習へどのようにつなげるのかを担当と国語担当教員で共有している。さらに 2017 年度は新たに ASOドリルを導入し、全入学予定者に e-learning で基礎学力を補う環境を整備した。リメディアル教育の有効性については、引き続き見直しが必要である。

基準 3 教育の実施体制

基準 3 総括

教育の実施体制については、教育目標の達成や人材育成がスムーズ行われるように関係法令の基準に従い、人材を採用し教員組織を整備している。

就職支援に関しては、進路指導室を設置し、求人検索システム・求人票・企業パンフレット・受験マニュアル・受験報告書などのツールを揃えとともに、各学科や地域の求人に対応できる専属の就職担当者を設け、クラス担任と連携を取り、就職のサポートを行っている。安全対策に関しては防災・防犯設備の点検や避難経路の掲示や避難訓練を年 1 回実施している。また学校生活における行事、実習における万一の事故に備え、学生災害傷害保険に加入している。

見つかった課題

学習指導において支援の必要な学生の情報共有が、徹底できない場合が見られた。

改善策又は改善の方向性

2018 年度は個別支援計画を作成し、サポートリストに基づき実施する。また、今年度に引き続き、学習支援体制として国語補講、コミュニケーション講座を実施していく。

■学校関係者評価結果：適 正

学校関係者評価 評価者のご意見

- ・医療事務の授業を受ける際、机が少し狭いと感じていた。(2人がけなので余計に)。もう少し広くなると授業が受け易くなると思う。
- ・最近では国語力が低い若者が多いので、国語補講やコミュニケーション講座はととてもよいと思う。
- ・教育体制において非常勤講師と情報を密に取る。情報を共有することが学生のためにもなり、体制強化が図られると思う。
- ・校内にエレベーターの設置がないということで、学生が怪我等で車椅子での通学になった場合の対応が少し気になった。

中項目 3-1

専修学校設置基準その他法令を遵守しているか。

■学校関係者評価結果：適 合■自己点検・評価結果：S

■中項目総括

遵守している。学内だけでなく、学事グループによる調査を行い、二重チェックを行っている。

小項目 3-1-1

教員は法令が定めた教員要件を満たし、必要な人員を適切に配置しているか。

■自己点検・評価結果：S

■コメント

県へ提出する「学校基本調査」や関係省庁への届出書類の作成時に必ず確認を行っている。

小項目 3-1-2

校地・校舎・講義室・実習室等の面積は、設置基準その他法令の基準を満たしているか。

■自己点検・評価結果：S

■コメント

学事グループによる調査を行い、基準を満たしていることを確認している。

中項目 3-2

教育の実施体制を整備しているか。

■学校関係者評価結果：適 合■自己点検・評価結果：B

■中項目総括

学校の教育理念、各学科の目的、教育課程を達成するために、関係法令の基準に従い教員を配置している。教員組織、事務組織を図にしたものを、事業計画書に記載している。また教員の役割、教員としての心構え、業務内容については麻生塾ルールブックに明記し周知している。

教育の質の向上を図るため、育成する人材像を非常勤講師とも共有し、学生指導や授業運営に対し連携、調整、情報交換等を行っている。

小項目 3-2-3

学科編成・教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

■自己点検・評価結果：A

■コメント

授業科目と担当教員の専門性は適合しており、主要科目には専任教員を適切に配置している。学科内には責任体制を確立し、学科間の組織的連携体制も確立している。教員の年齢構成、担当科目数において、改善の必要がある。

小項目 3-2-4

非常勤講師と適切な協業および情報交換を図っているか。

■自己点検・評価結果：B

■コメント

専門分野での実務経験や、資格検定取得科目等を考慮し、常勤、非常勤を適切に配置している。授業運営については、講師会や授業報告書又は直接的なやりとりにて情報交換を図っている。学生状況については、特に問題のある学生について情報共有しているが、非常勤講師からはもっと学生に関する情報が欲しいとの意見もある。

中項目 3-3

教育環境を整備・活用しているか。

■学校関係者評価結果：適 合■自己点検・評価結果：A

■中項目総括

学生が快適な環境で学習ができ、教育効果の向上や、就職支援のための教育環境を整備している。各学科の学習目標に沿った参考図書や関連図書を揃えた図書室を設置し、教職員・学生が利用できる状態にしている。学生の就職支援を行うために、進路指導室を設置し、情報検索用PCや就職に関するファイル等を備えている。また就職部職員が常駐し、就職に関する指導、相談等の対応をしている。

学内の環境整備として、喫煙場所を限定すると共に、禁煙に関するポスターや環境エコ活動(節電・ゴミ分別)に関する規定を文書化し教室などに掲示している。

学内外実習時の安全対策に関しては、学生・生徒災害傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入し、対応している。安全対策については、実習マニュアル等に記載し、全学科に統一された規定が文書化されている。

防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)について、保守点検業者を通じ確実に整備点検を実施し、その都度報告書を受領し、内容を精査している。

また学内の机・椅子・ロッカーは、管理委員会を設置し、1回/年、点検している。

小項目 3-3-5

実習で使用する学校設備機器、机・イス等の教育備品・教具等を整備し、管理体制を備えているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

実習用設備、備品、教具の管理については、該当学科が学内データとして管理している。年 1 回定期的に点検しているが、更新計画については明確化されていないため、次年度は計画立案を予定している。

小項目 3-3-6

学内外実習時の安全対策を立案・文書化し、十分な対策を取っているか。対象となる学生にはそれらを十分理解させたいと実習に参加させているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

学外実習においては、受け入れ企業・施設と安全面、個人情報規程などを含んだ打合せを行い、覚書を交わしている。参加学生には事前教育と行うと共に、インターンシップ保険に加入を義務付けている。また、保育施設での実習者については、厚生労働省の指定に沿い抗体検査、予防接種を行っている。医療従事者による感染症予防についての指導も行っている。

小項目 3-3-7

防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)を整備・点検しているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

適正に整備、点検を行っている。

小項目 3-3-8

学生が就職に関する情報を収集したり、専門職員が就職支援を行う指定された場所があり、活用しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

就職支援を行うために、進路指導室がある。学生は、就職に関する情報(求人票、パンフレット、受験報告書等)が閲覧できる。就職担当職員が常駐し、対応できるようになっている。学生個々の活用度については、今後改善していく。

小項目 3-3-9

図書室・図書コーナーがあり、教員や学生が利用できる関連図書等を備えて活用しているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

図書室内に業界関連書籍等を配架している。図書管理台帳を整備し、担当者が棚卸し等を行っているが、書籍の更新が必要である。

基準 4 教育目標の達成度

基準 4 総括

年度開始前に学科会議で前年度の結果や評価を考慮し、学科の目標設定を行う。その内容をKPIとして公表し、キックオフ会議で教職員が情報共有、周知できるようにしている。

成績評価、資格検定取得、退学等の学生状況については、教務会議等で全教職員と共有するとともに、学内システムにて管理され、月ごとの報告書で結果に対する検証を文書化し記録している。また学内において、前期は成績報告会、後期は進級・卒業判定会議を開催し、学生個々の学習状況や結果、指導方針を校長、校長代行に報告している。

就職に関しては、各学科について月ごとの目標を設定している。内定状況や学生の内定先など就職の動きが教職員で共有できるシステムを構築し、データ管理を行っている。就職担当者とクラス担任で毎週実施している定期会議にて、学生の就職状況に関する検証を行っている。学校のパンフレット、Web サイト、オープンキャンパス、入試説明会、保護者会などで外部に対して就職実績を公表している。

本校では就職内定がゴールではなく、卒業後に社会で活躍し続ける人材を育成することを目指している。そのため就職内定後、卒業後の早期離職の防止に向けて取り組んでいる。その施策のひとつとして、卒業生の 1 年後の就業状況を把握するための卒業生訪問やアンケート調査を行っている。

見つかった課題

各部署にての報・連・相の徹底。

就職内定辞退、取消、卒業後の離職も含めた早期離職。

卒業生訪問の際に卒業生アンケートを取っているが、卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の改善活動に活用するための卒業生アンケートの集計、分析が必要。

改善策又は改善の方向性

早期実習者の内定辞退・取り消しを防止するために、卒業生評価を調査する。また受入企業・施設からの実習評価表を活用し、実習生との面談、受入企業・施設担当者からの聞き取りを定期的に行う。

■学校関係者評価結果： 適 正

学校関係者評価 評価者のご意見

在校生アンケートは在校生への教育も大変有効だと感じた。また、現場の声も必要となると思うので、在校生と卒業生のディスカッションなども可能であれば、力強いと思われる。

中項目 4-1

各学科の教育目的に向けた達成度および成果を評価・公表しているか。

■学校関係者評価結果：適合■自己点検・評価結果：A

■中項目総括

学科の学習到達目標の達成に向け、教科ごとにシラバスを作成し、その目的、目標を明文化している。目標となる資格、検定の合格者、合格率の目標を設定し、教職員全員で共有し、進捗状況を管理、報告している。

育成した人材が希望の仕事に就くために、就職に関する目標を設定している。求人件数、月ごとの内定目標、就職スケジュールを設定し、事業計画書、印刷物・掲示・会議等を活用し共有している。学生の就職活動結果は、指導の内容、会社訪問や受験報告書に基づいて効果的な指導だったかを検証・報告している。また早期離職を防止するため、キャリア教育の強化や卒業後の就業状況の把握に努めている。

また卒業率をアップさせるために退学防止に力を入れている。前年度の退学者分析を行い、学習面、精神面について支援計画を立て、実行している。

小項目 4-1-1

デュプロマ・ポリシー(卒業認定の基本方針)として、どのような力を身に付けた者に卒業を認定するか基本的な方針を定めているか。

■自己点検・評価結果：B

■コメント

ディプロマ・ポリシーは、学生便覧に成文化されており、卒業認定基準、学生が身につけるべき資質、能力について具体的にまとめられている。しかし「何が出来るようになるか」の具体的事項が一部不十分な面もある。

小項目 4-1-2

教科の評価・成績に関して目標を設定し共有しているか。また適切な評価を行ない、結果について記録し、検証・報告したか。

■自己点検・評価結果：A

■コメント

出席、資格検定、成績評価、取得単位等については、学内システムにてデータ管理している。

学期ごとに学校長を含めた成績報告会議を行い、学習状況や今後の指導方針等を共有している。指導方針に関する改善策の有効性については、確認を継続する。

小項目 4-1-3

いわゆる「養成校」の国家資格試験および公務員試験の合格率・合格者数等の目標を設定・共有し、結果を検証し改善等しているか。

■自己点検・評価結果：B

■コメント

事業計画書に進級、卒業率、ならびに検定等の目標数値を設定し、全教職員がキックオフの場を通じ共有している。進捗

については、各学科での系会議にて管理しているが、上長への中間報告が徹底されていない。また結果について指導方法と効果を検証、報告するまでに至っていない。

小項目 4-1-4

資格・検定・コンペに関して目標を設定・共有し、結果について検証・報告・公表したか。

■自己点検・評価結果：A

■コメント

学科ごとに卒業検定や取得目標を設定し、学生便覧に記載し、学生に周知している。年間の資格・検定・コンペに関する目標は事業計画書に示していると共に、回毎に目標を設定し、共有している。結果については、月ごとのクラス運営報告書やMM報告書にて報告している。検定結果報告書・振り返りシートを作成のうえ、シラバスの検証・必要に応じて改善を行う。改善策の有効性については確認を継続する。

小項目 4-1-5

学生の就職に関して目標を設定し共有しているか。また就職活動を記録して、それをもとに結果の検証・報告・公表したか

■自己点検・評価結果：A

■コメント

事業計画書、月ごとの内定者目標などで、目標を設定している。就職部会や職員会議等で就職状況の確認を行い、クラス運営報告書やMM報告書にて目標と実績の報告、共有を行っている。求人件数や指導法の効果検証等については、一部の教職員のみでの把握となっている。

小項目 4-1-6

卒業率のアップに関して目標を設定・共有し、退学を防止する活動に関して検証し、退学者数を公表しているか。

■自己点検・評価結果：A

■コメント

退学率の目標は、学年ごとに設定し、事業計画書・全体教務会議で共有している。退学結果に関して、目標設定に基づいて計画を立て、年度末には効果的な指導だったかを系会議・全体会議等で検証・共有している。退学者状況については、学校のHPにて毎年情報公表している。改善方法の有効性については、確認を継続する。

基準 5 学生支援

基準 5 総括

在学時の学生支援としては、主に精神面、進路、経済面についての支援組織、環境整備を行っている。精神面については、担任による面談を定期的に行うほか、日常の声掛け、スクールカウンセラーによる相談を行っている。進路については、担任以外に、有資格者(キャリアカウンセラー)が必要に応じた進路相談指導を行っている。またハラスメント防止規程、ハラスメント委員会を設置し、学生が受けたハラスメントについての相談できる体制を整えている。経済的な支援については、学費分割納入制度や各種奨学金を運用し、有効に機能している。さらに 2015 年度より「授業料減免制度」を設け、経済的困難者に対応している。

卒業後の支援としては、同窓会組織として「校友会」を設置しており、2年に1回、校友会総会を開催しています。また年に1回の校友会新聞の発行や、Facebook、キャンパスブログにより卒業生に情報提供を行っている。必要に応じ、無料の職業紹

介、再就職支援も行っている。さらに卒業生に対する資格取得対策講座も実施している。

学校情報については、学校行事、学科イベント、学習状況、就職状況等をキャンパスブログや Facebook を通して発信している。

見つかった課題

在校生および卒業生に対し組織的な支援体制を整えているが、活用度や満足度に関する調査については、データ化されるまでには至っていない。そのため、支援の有効性についても客観的に検証できていない。

改善策又は改善の方向性

2018 年度は、卒業満足度調査を振り返り、学生満足度が比較的低い分野への支援を強化する取り組みを行う。

■学校関係者評価結果：適 正

学校関係者評価 評価者のご意見

- ・卒業生を対象にした再就職支援のための講座開設を是非行って欲しい。卒業生にも(古い卒業生に対しても)伝えて言って欲しい。
- ・卒業生に対する支援をもっと欲しい。
- ・先生と生徒の信頼関係が築かれていると感じる。単なる学習指導だけでなく、家庭などの背景まで考慮して指導されていると感じる。
- ・卒業生のキャリアアップの研修や講習について、就職した企業内でもいろいろと実施はされていると思うが、同級生とのかかわりや研修を受ける環境が変わることで、視野の広い人材に成長できるので、何らかの形で実施していただきたい。
- ・面談を行う教員への教育(面談のやり方等)はしているか気になる。

中項目 5-1

学生支援体制を整備し、支援を組織的に行なっているか。

■学校関係者評価結果：適 合

■自己点検・評価結果：A

■中項目総括

学生がスムーズな学校生活を円滑に行えるよう学生本人や保護者との計画的面談のほか、学生の状況に応じた面談を実施している。面談内容を時系列に『ガイダンス記録票』に残している。またメンタルヘルスのために、担任以外にスクールカウンセラーが週 1 回来校し、学生が必要とする時に相談できる体制を整えている。スクールカウンセラーの面談時は、『相談記録』に残し、個人情報保護のため厳重に管理している。場合によっては医療機関やその他専門機関への紹介等を行い、学生が社会で自立するための連携を図っている。進路指導については、法人の有資格者(キャリアカウンセラー)により、授業その他、就職指導を行なっている。学内にはハラスメント規程を設置しており、学生自身では解決困難な問題等について、ハラスメント委員が相談に応じている。

経済的支援としては、必要とする対象者に対して、奨学金制度や学費分納制度、授業料減免制度等について案内し、状況を配慮しながら適切な情報を提供している。

留学生を受け入れる支援体制として、麻生塾内に国際交流センターを設置している。

小項目 5-1-1

教員による学生の面談を定期的に行ない、適切な支援を行なっているか。

■自己点検・評価結果：S

■コメント

計画的面談の他、学生の状況に応じた面談を実施している。面談内容は面談記録やガイダンス記録に残している。

小項目 5-1-2

保護者と計画的な相談や面談を行ない、説明責任を果たしているか。

■自己点検・評価結果：S

■コメント

学校生活を円滑に行うため、保護者との信頼関係を築くための計画的な面談を実施している。学校生活や学生状況、成績、就職希望確認等の面談内容を記録に残している。

小項目 5-1-3

キャリアサポート関連の有資格者(キャリアカウンセラー等)を配置し、学生の就職指導を行なっているか。

■自己点検・評価結果：S

■コメント

有資格者による適切な進路相談指導を行なっている。有資格者は福岡キャンパス・北九州キャンパスに在籍しており対応できている。

小項目 5-1-4

スクールカウンセラーを配置し、教員以外に相談できる体制を整えているか。

■自己点検・評価結果：A

■コメント

メンタルヘルスのために、担任以外にスクールカウンセラーが週 1 日来校している。必要に応じて学外の専門機関への紹介等も行っている。「学生相談室」として気軽に相談できるよう、メールで予約できるようにしている。相談体制の満足度については、今後検証していく。

小項目 5-1-5

ハラスメント防止に関する相談窓口を設置し、学生に周知し、有効に活用しているか。

■自己点検・評価結果：B

■コメント

ハラスメントに関わる規程を文書化・公開しており、規程は学生便覧や掲示物にて学生に周知している。2017 年度については、ハラスメント防止委員会や委員の研修が実施されなかった。

小項目 5-1-6

奨学金制度等の経済的支援を行なっているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

奨学金制度について、必要とする対象者に対して、状況を配慮しながら適切な情報を提供している。2015年度より、独自の授業料減免制度を適用している。また経済的支援については教職員の全体会議にて周知している。

小項目 5-1-7

留学生、社会人学生、障がい者等を受け入れて、支援を行なっているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

留学生、社会人、障害手帳保持者など幅広い学生を受け入れている。多様性のある学習者に対し、支援を行う態勢を整備している。

小項目 5-1-8

課外活動に対する支援を行なっているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

課外活動の1つとして、部活動に対し、卒業生同窓会組織である校友会からの支援が行われている。人的支援については、一部の教職員に負担が生じているのは否めない。学生の満足度を卒業時アンケートの項目にて確認している。

中項目 5-2

卒業生等に対する支援を行なっているか。

■学校関係者評価結果：適 合

■自己点検・評価結果： A

■中項目総括

卒業生に対し、登録制度による無料職業紹介を行い、再就職支援を行っている。今後は、更に卒業生を対象にした講座等を開設し、卒業生のキャリア形成や生涯学習を支援する予定である。

小項目 5-2-9

卒業生の就業先へ定期的な訪問をし、1年後(任意)の在籍状況を把握しているか。また、キャリア教育の成果を把握して、学校の教育活動に活用しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

卒業後 1 年後、就業先へ訪問し在籍状況、配属部署や職務内容を把握している。2 年以上就業している卒業生についても常に情報を更新しており、就職担当者と教務で情報共有を行っている。2 年以上の在籍状況の把握にも努める。

小項目 5-2-10

卒業生に対して職業紹介や講習・研修を行なう体制があり周知され、効果を上げているか。

■自己点検・評価結果： B

■コメント

業生に対し、登録制度による無料職業紹介を行い、再就職支援を行っている。しかし実績や満足度の報告が徹底されていない。卒業生のキャリアアップのための研修や講習について体制を整える必要がある。

基準 6 学生募集・受け入れ

基準 6 総括

学生募集については、アドミッションポリシーや学費、募集定員等を募集要項や Web サイトにて公表し、学校としての学生受け入れ方針を明らかにしています。また本校が育成する人材像、目指す資格検定、修得出来る知識や技術、さらに本校の教育成果を伝えるため、就職実績、資格取得状況、卒業生の活躍等を印刷物や Web サイトに掲載し入学後のミスマッチを無くすように務めている。

入学者選考は、公表している選抜方法に則り、公正かつ適切に実施している。

見つかった課題

18 歳人口の減少の影響で、学科間で定員充足率に偏りがある。

改善策又は改善の方向性

社会人ならびに留学生への来校を促進する。卒業生の活躍の様子を、さまざまなメディアを通して紹介していく。SNS の活用強化、経済的支援、大学との差別化等について打ち出していく。

■学校関係者評価結果：適 正

学校関係者評価 評価者のご意見

・介護福祉士の資格取得方法が変わったので、募集時、HP 上でもわかりやすく説明をした方がよいのではないかと。
・学科により募集が少なく、厳しくなっているようだが、進路に当たっては学校の先生やご両親の影響が非常に強くなると思われるので、企業の協力を得て職種説明会などを、同席で行うなどの工夫が必要だと思う。(その企業の人材確保のためにも)

中項目 6-1

学生募集活動を適正に行ない、入学選考を公正かつ適切に実施しているか

■学校関係者評価結果：適 合

■自己点検・評価結果： A

■中項目総括

アドミッションポリシーを募集要項や麻生塾Webサイトに公表し、学校及び学科が入学者に求める資質、意欲、適性等を明らかにしている。また入学希望者及びそこに関わる方々に対して、本校の育成人材像、取得予定資格、学費・教材費等はパンフレット、募集要項・麻生塾 Web サイト等に明示している。

選抜方法は募集要項・麻生塾 Web 等で明示され、公正かつ適正な入学者選考を行っている。また選考の実施方法や選考基準についても定期的に検証している。学生募集に関する問い合わせには即かつ柔軟に対応できる担当者を配置している。学校説明会については、オープンキャンパスのスケジュールを作成し、紙媒体及び麻生塾 Web サイトで入手できるようにしている。また、入学者が入学後スムーズに学生生活が行えるよう、全入学予定者を対象に、入学前オリエンテーション・入学前ガイダンスを実施している。

小項目 6-1-1

アドミッションポリシー(学生の受け入れ方針)を定め文書化し、入学希望者に求める資質、意欲、適性等を明示しているか。

■自己点検・評価結果: A

■コメント

アドミッションポリシーは募集要項や麻生塾 Web サイト等に明示している。特に AO 入試を希望する者に対してはその内容を理解しているかを必ず確認している。

小項目 6-1-2

高等学校を定期的に訪問し、高校生の進路ニーズを把握し、学生募集活動に反映させているか。

■自己点検・評価結果: S

■コメント

最新情報と常に把握し、学生募集活動に反映させている。

小項目 6-1-3

学生募集活動において、就職実績、国家試験結果、卒業生の活躍等の教育成果を、正確に伝えているか。

■自己点検・評価結果: A

■コメント

各学科の育成する人材像、到達目標に対する実績を印刷物や、Web サイトで掲載している。またオープンキャンパスの全体説明および学科説明において、パンフレットやパワーポイントを使用し説明している。

小項目 6-1-4

学校案内等には育成人材像、目指す国家資格・就職先、修得できる知識及び技術等を明示しているか。

■自己点検・評価結果: S

■コメント

入学対象者及びその方に関わる方々に対して、取得予定資格をパンフレット、麻生塾Webサイト等で明示している。

小項目 6-1-5

募集要項等には学費・教材費等をわかりやすく明示し、金額は妥当なものになっているか。

■自己点検・評価結果: S

■コメント

入学対象者及びその方に関わる方々に対して、学費・教材費等を募集要項・麻生塾 Web サイトで明示している。

小項目 6-1-6

募集要項等には入学者の選抜方法を明示し、選考を公正かつ適切に実施し、毎年検証を行なっているか。

■自己点検・評価結果: S

■コメント

選抜方法は、定期的に検証し、入学対象者及びその方に関わる方々に対して、募集要項・麻生塾 Web 等で明示している。その方法は全教職員にて共有している。

小項目 6-1-7

適切な募集定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

■自己点検・評価結果: B

■コメント

関係法令や施設の収容状況に応じて定員を管理している。

基準 7 社会的活動

基準 7 総括

地域・施設への貢献、学びの還元を意図し、学校教育内容の特徴を活かした連携を図りながら、学生のボランティア活動や職業教育に係る活動を推奨している。施設やNPO法人、行政からのボランティア依頼への参加はもちろん、小学校訪問、地域清掃活動、警察署との連携による地域高齢者に対する活動にも積極的に取り組んでいる。

また、職業理解イベントである「おしごと探検 in 北九州」や「お仕事スタジアム」を無料で開催し、高校生や中学生向けのキャリア教育の一環も担っている。

見つかった課題

ボランティアに関しては、前年度の活動を元にスケジュール化しているが、年間計画的に運営するには至っていない。また、活動についても、学科間で偏りがある。

改善策又は改善の方向性

ボランティア情報を可能な限り年度のはじめ、学期の初めに集約するようにし、一人でも多くの学生がスケジュールを把握し、参加できる環境づくりをする。

■学校関係者評価結果: 適正

学校関係者評価 評価者のご意見

- ・地域貢献への意識付けは企業に入ってから活動に繋がるので、良いと思います。
- ・ボランティアは自主的な意思で行うものであるため、社会的な活動の意味をしっかりと学生に理解させ、実施を進めていくべきだ。
- ・実習期間とボランティア期間が重なっている学生がいたが、午前中をボランティアのために休んで昼から実習に来ていた。ボランティアと実習との優先順位の明確化をして頂きたかった。学生さんもどちらも重要かと思うが、(学生自身で)判断することが難しいのでないかと思う。
- ・高齢者施設でのイベント開催はとても良いと思う。実際の現場や外に出て、コミュニケーションをとることは大切だと思う。

中項目 7-1

計画的・組織的に社会的活動への取り組みを推進しているか

■学校関係者評価結果：適 合

■自己点検・評価結果：B

■中項目総括

各学科で計画を立て、社会活動に取り組んでいます。子ども福祉科では小学校での音楽交流会、福祉施設慰問、地域における親子イベントへの参加等を実施している。医療事務の学科では、高齢者施設でのイベント開催等を行い、それぞれが専門職としての視点と知識、技術を持って地域活動に取り組んでいる。また学校として積極的なボランティア参加を促している。特に医療福祉の学科では、ボランティア参加回数を設定するなどしている。

各業界団体との関係性については、介護福祉士養成施設協会、社会福祉士養成校協会、北九州市私立幼稚園連盟、北九州児童養護施設協議会、北九州市保育所連盟、北九州市保育士会、北九州市健康・生活産業振興協議会等へ加盟し、定期的な会合に参加している。

小項目 7-1-1

学生に対し、計画に基づく社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動等)を推進し実施しているか。(制度上の問題がなければ単位認定)

■自己点検・評価結果：B

■コメント

各学科にて計画を立て、一般的なボランティア活動はもとより、専門的知識を活かし、小学校での介護教室・音楽交流会、福祉施設慰問等の地域活動を実施している。

小項目 7-1-2

学校は教育資源を生かした地域住民参加の公開講座などを実施しているか。

■自己点検・評価結果：C

■コメント

2017 年度については、高校生の職業体験(インターンシップ生)を受け入れているが、地域住民を対象とした公開講座は実施していない。

小項目 7-1-3

企業・地域・行政等の組織と連携を図り、地域社会に貢献しているか。

■自己点検・評価結果：B

■コメント

北九州市主催の「ゆめみらいワーク」への出展や地域の子ども園、小学校、高齢者施設等におけるボランティアや交流会を行っている。

基準 8 管理運営・財務(学校・グループ)

基準 8 総括

麻生塾では社会に信頼される学校であり続けるためにコーポレートガバナンス体制の充実化とコンプライアンスの徹底に努めています。2013年度からは人事考課制度である新人材マネジメント制度を実施し研修制度とリンクさせて教職員の資質向上に努めています。

2015年度より麻生塾ルールブックを作成し、学校の管理・運営体制を明確に示し、全教職員に共有、周知徹底しています。

見つかった課題

麻生塾ルールブックの内容を、より周知するためにその活用法を検討する必要があると考えている。

改善策又は改善の方向性

2017 年度は新人事評価制度に関する説明会を人事課より、教職員個別の説明を実施した。

■学校関係者評価結果：適 正

学校関係者評価 評価者のご意見

・学生にとっては常勤講師か、非常勤講師のどちらも教員であることに代わりはないので、ルールブックに基づいて、共有、周知徹底をすべきである。

中項目 8-1

学校の管理・運営体制を確立して、規程通りに運営しているか

■学校関係者評価結果：適 合

■自己点検・評価結果：A

■中項目総括

麻生塾としての運営会議、経営会議はもとより、学内においても定例会議を実施し、全教職員に経営方針や情報の共有を行っている。組織構成、職務分掌は麻生塾ルールブックに明記しており、各人に配布している。

防災マニュアル、危機管理マニュアル、個人情報保護規定等も整備され、組織立ったリスクマネジメントも行われている。

職員の資質向上のために、スキルマップや人材育成計画をもとに、各自の目標設定を行い、その達成にむけた研修の受講や具体的行動を目標シートに落とし込み新人材マネジメント制度と関連付けている。新人材マネジメント制度や昇進・昇格制度は文書化しており、常時教職員が閲覧できる状態にある。

防災・防犯対策として防火管理者を設置し、消防署と連携を図り自衛消防隊の編成と任務を文書化している。非常事態発生時に教職員が自身の役割を認識し、行動できるよう 1 回消防・避難訓練を実施している。

小項目 8-1-1

各学校、各グループで運営会議(教務会議・グループ会議等)を定期的に行い、進捗・課題・成果を共有しているか。

■自己点検・評価結果: A

■コメント

塾として月 2 回の共有会議、四半期に 1 度の MM 会議が行われている。学内では月 1 回の全体会議、責任者会議、リーダー会議が開催され、議事録は保管している。各系教務会議、就職部会や広報会議は定期的に行っている。情報共有が徹底され課題を明確に認識しているが、進捗状況について、確認が徹底できない場合があった。

小項目 8-1-2

各学校および各グループの構成員全員の職務分掌(業務の内容および責任・権限)を文書化し、教職員に周知し、適切に運用しているか。

■自己点検・評価結果: B

■コメント

麻生塾ルールブックに明記され、各人に配布、周知している。業務において、一部偏りが見受けられる。

小項目 8-1-3

防災・防犯対策、非常時対策を文書化し組織化しているか。また、避難訓練等を定期的に行っているか。

■自己点検・評価結果: A

■コメント

自衛消防隊の編成と任務が文書化され、消防署による教職員研修、および全学生による消防・避難訓練を実施している。学校全体でのリスクマネジメント委員会は開催できなかった。

小項目 8-1-4

個人情報保護規程を教職員に周知し、適切に運用しているか。

■自己点検・評価結果: B

■コメント

麻生塾ルールブックに個人情報保護管理規定として明記し、各人に配布、周知されているが、運用の徹底については改善の余地がある。

小項目 8-1-5

ハラスメント防止に関する規程を学校構成員に周知し、適切に運用しているか。

■自己点検・評価結果: A

■コメント

ハラスメントに関わる規程を文書化・公開しており、規程は教職員に周知している。相談窓口についても全教職員が把握している。相談がなかったため、指導内容を委員会へ報告することはなかった。

小項目 8-1-6

事務職員の意欲・資質の向上を図るために、研修計画を作成し、実施しているか。

■自己点検・評価結果: A

■コメント

スキルアップ、人材育成計画を作成し、それぞれの目標達成に向けた研修計画を立てている。また研修計画に基づいて、該当する内容の外部研修にも派遣している。研修評価をもとに次年度の研修計画についての作成が必要である。

中項目 8-2

学校の財務体質は健全であり、財務運営は適切に行なっているか。

■学校関係者評価結果: 適合

■自己点検・評価結果: A

■中項目総括

年度予算を作成し、理事会にて承認している。毎月、勘定項目及び予算の執行状況を確認し、報告している。

会計監査(内部・外部)体制については、学校法人がその公共性を担保するために、会計士監査と監事による監査体制を敷いて適切に運営している。毎年度公認会計士による監査を受け、監査報告書による監査結果を得ている。財産目録、事業報告書については、利害関係者は閲覧することが可能な体制となっている。監査報告書、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書はWebサイト上で公開している。また固定資産管理運用基準を設け、その基準に従って運用している。

小項目 8-2-7

年度予算および中期計画を策定しているか。

■自己点検・評価結果: S

■コメント

年度予算を作成し、理事会にて承認されている。中期計画については 5 年後の学校像および、3 年後の収支計画を策定し、その実現に向けた施策を立案している。

小項目 8-2-8

予算は計画に従って妥当に執行し定期的に確認しているか。

■自己点検・評価結果： S

■コメント

毎月、事務長及び校長代行にて勘定項目の確認及び予算の執行状況を確認している。

小項目 8-2-9

固定資産を適切に管理・運用しているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

固定資産管理運用基準を設け、その基準に従って適切に運用している。除却対象資産の洗い出しは完全には終わっていない。

小項目 8-2-10

図書(固定資産)を適切に管理・運用しているか。(該当校)

■自己点検・評価結果： S

■コメント

図書管理規程を文書化しており、図書室において、学校図書を管理、運営している。固定資産として図書原簿を作成し、新たな購入図書については、随時追加登録している。

=====
基準 10 改革・改善・情報提供
=====

基準 10 総括

自己点検・評価委員会を組織しており、評価項目ならびに評価時期を明文化し、実施している。自己点検・評価については、企業関係者や地域住民、保護者、高校教員、卒業生等で構成される学校関係者評価委員会で評価していただき、その内容をまとめ Web サイト上でも公開している。

自己点検・評価の結果の必要性、結果の検証ならびに改善計画については、全教職員と共有する機会を設けている。

見つかった課題

自己点検・評価に関して、評価基準の周知・徹底。

改善策又は改善の方向性

評価基準や項目を明文化し、全教職員が統一した評価基準で点検を行うように実施した。2018 年度は全教職員に対し、自己点検・評価活動や第三者評価に関する研修を行う予定である。

■学校関係者評価結果： 適 正

学校関係者評価 評価者のご意見

なし

中項目 10-1

自己点検・評価活動の実施体制を確立して、改革・改善のためのシステムが稼働しているか

■学校関係者評価結果： 適 合

■自己点検・評価結果： A

■中項目総括

自己点検・評価を円滑に実施するために、自己点検・評価の目的や方法を文書化しています。また、それを組織的に実施するために、および、継続的改善を図るために、学校内に『自己点検・評価委員会』等を組織している。

自己点検・評価報告書は本校で作成し、学校関係者評価委員会に提出する。最終的な評価は学校関係者評価委員会の中で行っていただいている。その評価結果は、全体教務会議にて、全教職員が共有すると共に、データ管理し、Web サイトにて情報公開している。また自己点検評価によっては、「自己点検・評価フォローアップシート」にて改善計画を作成し、改善に取り組んでいる。

小項目 10-1-1

自己点検・評価の意義を全教職員に伝え、点検・評価活動の方法や評価基準を共有する機会を設けたか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

全体教務会議にて、自己点検・評価の目的と必要性を教職員に正確に周知している。点検・評価項目は統一されているが、レベル合わせは徹底できない項目もあった。

小項目 10-1-2

自己点検・評価を実施し、その結果に基づいて、改善計画を作成・実施し、結果の検証をしているか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

自己点検委員会の計画に則り、姉妹校より内部監査委員が内部監査を行い、実情を確認している。不十分な点については改善計画を作成して取り組んでいる。今後、改善計画の有効性を検証していく。

小項目 10-1-3

自己点検・評価報告書は、公開に際して外部の方にわかりやすいような表現にしたり、必要な解説を加えたか。

■自己点検・評価結果： A

■コメント

職業実践専門課程の学校関係者評価委員会にて評価をいただき、その内容を Web サイトにて公開している。フォローアップ活動については、今後実施していく。

中項目 10-2

公的な教育機関として、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供しているか。

■学校関係者評価結果：適合

■自己点検・評価結果：A

■中項目総括

責任者は情報公開の研修に参加するなどし、情報公開が教育の質の向上につながることを意識し、積極的に提供しよう務めている。

小項目 10-2-6

法令およびガイドラインに従い積極的に情報提供の取り組みを行なっているか。

■自己点検・評価結果：B

■コメント

文部科学省委託事業「職業実践専門課程等を通じた専修学校の室保証・向上の推進」に関する研修に参加するなどし、法令及びガイドラインに示された項目について情報提供を行っている。

小項目 10-2-7

提供している情報はガイドラインに示された項目に沿ったものであるか。

■自己点検・評価結果：A

■コメント

自己点検・評価の内容を、学校関係者評価委員会にて報告する。評価委員より出された意見は、学校の運営および改善活動に活かされている。出された意見は、議事録として公開残している。

小項目 10-2-8

情報提供は対象者に合わせて情報の内容や提供手段を工夫し、わかりやすく効果的であるか。

■自己点検・評価結果：A

■コメント

情報提供は、対象者に合わせて内容や手段を工夫している。パンフレットや募集要項、ホームページ等は、毎年改善を重ねている。